

魚類の特徴

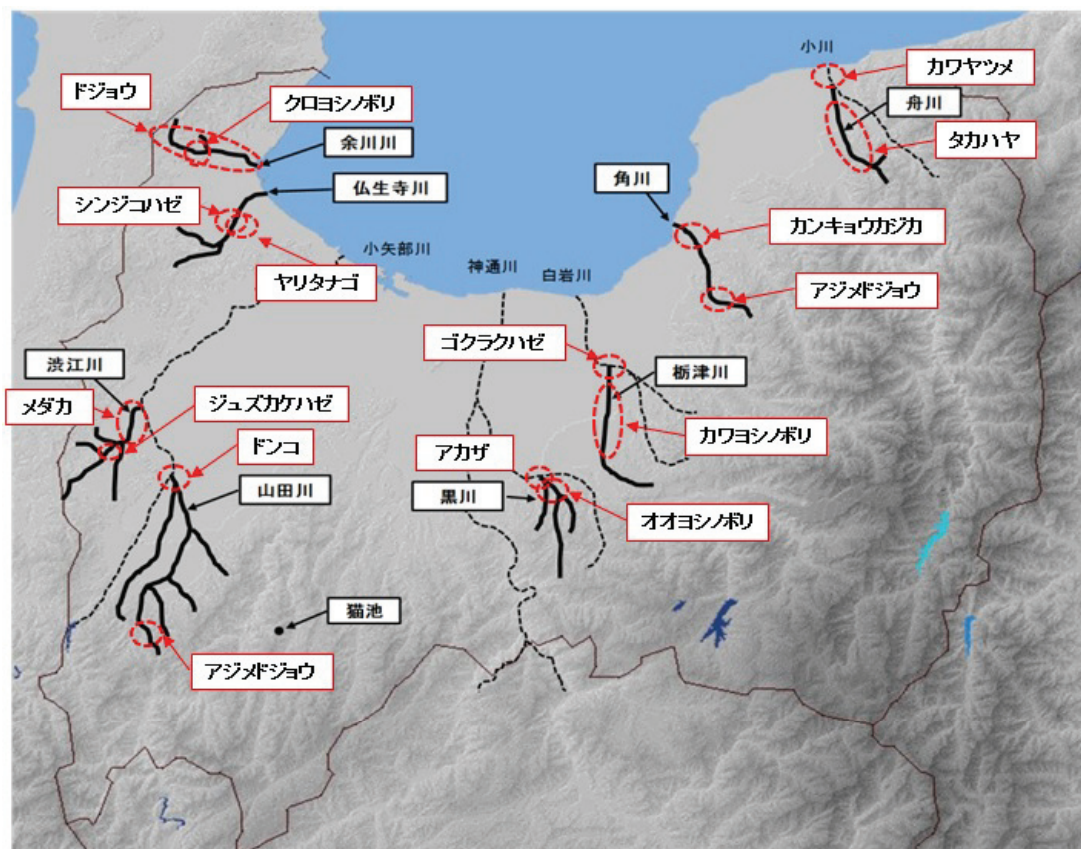


図1 各河川流域に出現した主な魚類

富山県は、県東部では標高3,000m前後の山岳地帯があることから急流河川が多く、県西部では平野部が発達しており比較的緩い流れの河川が多い。2007～2014年の調査を行った河川は、県東部から順に舟川（小川支流）・角川（白岩川支流）・黒川（神通川支流）・山田川（小矢部川支流）・流江川（小矢部川支流）・仏生寺川・余川川の8河川である。これらには、富山湾に流れ込む河口付近から上流までの河川と、大河川の上流域に位置する支流が混じっており、単純に比較することは難しい。また、ほとんどの調査が単年で現地調査の回数も少なく、調査方法も手ダモと投網を主とした捕獲や聞き取りで、生息種を網羅できていないが、ざっくりと出現種を概観してみた。

表1に、各河川での確認種を示した。◎は、各河川における特徴的だと判断した種である。全河川で確認されたのは計13科46種であり、富山県で記録されている種数が約100種であることから、半分ほどの種が確認されたことになる。各河川別では、科数は7～9科、種数は16～25種と、著しい差は見られない。一番多くの25種（種が不明なサケ属稚魚は除く）が確認された余川川は、調査方法や期間が異なることから多く確認された可能性もあるが、平野部を流れ、緩い流れの下流・河口域を有することから、ハゼ科魚類が多く確認されている。一方、最も少ない16種が確認された黒川は、神通川から分かれた熊野川の上流に位置する支流で、河口から21km以上も上流にある山間地を流れており、緩い流れに見られるコイ科魚類や河口域や下流域に多いハゼ科魚類が少なかった。

表1 各河川別確認種と特徴種

◎:特徴種

No.	科名	種名	余川川	仏生寺川	渡江川	山田川	黒川	椈津川	角川	舟川	
1	ヤツメウナギ科	スナヤツメ (南方型)	○	○	○		○	○	○	○	
2		カワヤツメ								◎	
3	アユ科	アユ	○		○	○	○	○	○	○	
4	サケ科	イワナ				○	○	○	○	○	
5		サケ							○	○	
6		サクラマス (ヤマメ)				○	○	○	○	○	
7		アマゴ						○			
8		コイ科	コイ		○	○	○			○	
9			ギンブナ	○	○	○	○				○
10			ヤリタナゴ		◎						
11	タイリクバラタナゴ			◎							
12	オイカワ		○	○	○	○		○	◎		
13	カワムツ						○		◎		
14	アブラハヤ			○	◎	○	○	○			
15	タカハヤ		○	○		◎	◎	○	○	◎	
16	ウグイ		○	○	○	○	○	○	○	○	
17	モツゴ		◎								
18	タモロコ		○	○	○	○		◎			
19	カマツカ				○	○				○	
20	ドジョウ科		ドジョウ	◎	○	○	○	○	○	○	
21			ニシシマドジョウ	○	○	○	○	○	○	○	○
22			アジメドジョウ				◎	◎		◎	
23	ナマス科		ナマス		○	○	○				
24	アカザ科		アカザ				◎	◎	◎		
25	ボラ科		メナダ		◎						
26	メダカ科		メダカ	○	◎	◎					
27	バス科	オオクチバス		◎	○						
28	ドンコ科	ドンコ	○		◎	◎					
29	ハゼ科	アシシロハゼ	◎								
30		ヌマチチブ	○	○				○	○	○	
31		カワヨシノボリ	○	○	○	○	◎	◎			
32		シマヨシノボリ	◎				○		○		
33		オオヨシノボリ	○			○	◎		◎		
34		クロヨシノボリ	◎								
35		トウヨシノボリ	○	○	○	○		○	○	○	
36		ゴクラクハゼ						◎			
37		スミウキゴリ	○						○	○	
38		ウキゴリ	○	○				○	○	○	
39		シマウキゴリ	○						○		
40		シンジコハゼ	○	◎							
41		ジュズカケハゼ			◎						
42		シロウオ	◎								
43	カジカ科	アユカケ (カマキリ)	◎							◎	
44		カジカ (大卵型)					◎	○	○	◎	
45		カジカ (中卵型)								◎	
46		カンキョウカジカ							◎		

魚種別に見ると、全8河川で確認されたのはウグイとニシシマドジョウの2種で、7河川で確認されたのはスナヤツメ (南方型)・アユ・タカハヤ・ドジョウ・トウヨシノボリの5種、6河川で確認されたのはオイカワ・カワヨシノボリの2種であった。これらは、富山県での広域分布種と言える。

次に、富山県の絶滅のおそれのある野生生物「レッドデータブックとやま2012」に掲載されている魚類は、絶滅危惧Ⅰ類及び絶滅危惧Ⅱ類がそれぞれ7種であるが、本調査で確認されたのは、絶滅危惧Ⅰ類がカワヤツメ (1河川)・ヤリタナゴ (1河川)・アカザ (3河川)・クロヨシノボリ (1河川)の4種、絶滅危惧Ⅱ類はナマス (4河川)・シンジコハゼ (2河川)・ジュズカケハゼ (1河川)・カジカ (中卵型) (1河川)・カンキョウカジカ (1河川)の5種であった。その他、純絶滅危惧種 (掲載8種)が7種も確認されており、本調査の結果は今後の淡水魚保全を考える上での貴重な基礎資料と言える。

今後、富山県内の小河川の調査を継続するとともに、大河川や池・沼などの調査を行って、富山県全域の淡水魚の生息状況を明らかにすることが重要だと考える。